



平安神宮 白虎楼

1 平安宮西限・藻壁門跡

藻壁門は大内裏西側の南から2番目の門。門を入ってすぐの東南に左馬寮（官馬の飼養などを司った役所）がありました。



3 平安京大内裏朱雀門址

平安宮南面中央にあった正門。内裏の門のうち、朝堂院の応天門と並んで最重要視されました。



5 平安宮主水司跡

主水司は、平安宮の飲料水や水室等を職掌とする役所です。



6 平安宮中務省東面築地跡

中務省は天皇の秘書官としての職務と内廷関係の諸雑務を担当した重要な役所の一つです。



7 平安宮内裏宣陽殿跡

納殿ともいわれ、累代の御物を納める所で、枕草子や源氏物語にも記載があります。



8 平安宮内裏綾綺殿跡

天皇の住まいである内裏十七殿の一つで、宮中の舞等が行われていました。



9 平安宮内裏蘭林坊跡

内裏の北西に位置し、儀式の際の用具を始めとする御物（ぎよぶつ）・御書等が納められていた場所です。



10 平安宮内裏弘徽殿跡

女御・更衣の共同居所。一時的に天皇の居所にもなり、後宮の中でも重要な殿舎でした。



11 平安宮内裏承香殿跡

天皇の書物を保管する場所で、紀貫之等による古今和歌集の編纂等も行われました。



12 平安宮内裏昭陽舎跡

後宮五舎の一つで、庭に梨を植えたことから梨舎とも呼ばれました。後撰和歌集の編纂もここでされました。



「源氏物語ゆかりの地」説明板の名称

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 1 平安宮西限と左馬寮跡・藻壁門跡 | 15 平安宮内裏承香殿跡 |
| 2 史跡平安宮跡 豊楽院跡(豊楽殿跡) | 16 平安宮内裏昭陽舎(梨舎)跡 |
| 3 平安宮朝堂院昌福堂跡 | 17 平安宮内裏温明殿(内侍所)跡 |
| 4 平安宮太政官跡 | 18 平安宮内裏東限と建礼門跡 |
| 5 大学寮跡 | 19 平安宮内裏跡 |
| 6 平安宮式部省跡 | 20 平安宮内裏東限殿跡 |
| 7 平安宮民部省跡 | 21 平安宮内裏承明門跡 |
| 8 平安宮中務省跡 | 22 平安宮内裏蔵人町屋跡 |
| 9 平安宮内裏南限と建礼門跡 | 23 史跡平安宮跡内裏跡(内郭回廊跡) |
| 10 平安宮内裏宣陽殿跡 | 24 平安宮朝堂院大極殿跡 |
| 11 平安宮内裏淑景舎(桐舎)跡 | 25 平安宮堂の松原跡 |
| 12 平安宮内裏凝華舎(梅舎)跡 | 26 平安宮大蔵省跡・大宿直跡 |
| 13 平安宮内裏清涼殿跡 | 27 一条院跡 |
| 14 平安宮内裏弘徽殿跡 | 28 平安宮一条大路跡 |

源氏物語ゆかりの地



平安神宮(応天門) 1894年、平安遷都1100年を記念し平安京大極殿の8分の5の規模で社殿が復元されました。

平安宮跡

千本丸太町にあった大極殿を中心に平安宮が造られました。内裏跡は千本通から智恵光院通の間の出水通、下立売通付近に、数多くゆかりの地の石碑等が集中しています。建物等の遺構を明示した史跡もいくつかあり、平安宮の様子を遺跡の説明板等からその位置を探りながら歩くことができます。この地図は上京の歴史を感じさせる家並みを歩き、平安宮の遺跡をめぐるルートをご案内しています。そのほか平安神宮や京都御所、京都アスニーや京都市考古資料館、京都文化博物館等の施設も併せて見学されるとよりイメージが高まるでしょう。



2 史跡 平安宮跡豊楽院跡(豊楽殿跡)

豊楽院は国家的な饗宴が行われた場所で、その正殿が豊楽殿です。発掘調査で豊楽殿北西部と北側の清暑堂の建物や両堂をつなぐ豊楽殿北廊が見つかっています。

4 二条児童公園(鵜池碑)

頭は猿、胴は狸、手足は虎、尾は蛇という妖怪「鵜」退治の時、源頼政が鵜(やじり)を洗ったといわれる「ぬえ池跡」の碑があります。

あなたは平安宮のどの辺りを歩いているのでしょうか？



マップ目印解説

- 1 「源氏物語ゆかりの地」説明板
- バス停
- トイレ
- 警察
- 信号機



平安神宮 音龍楼



京都市考古資料館 京都市内の発掘調査によって出土した平安京や周辺遺跡の遺物を中心に、復元模型や写真パネルを交えて京都の歴史をわかりやすく展示紹介されています。

16 史跡 平安宮跡内裏内郭回廊跡

内裏を囲む内外二重の郭の内側部分、内郭回廊の西側にあります。発掘調査で基壇や雨落溝、暗渠等が見つかり、史跡指定され大切に保存されています。(市指定史跡)

27 大極殿遺址道 28 大極殿遺址

大極殿は平安宮の政庁である朝堂院の正殿で、高御座(たかみくら)には儀式や謁見の際に天皇が着座されました。公園東の入口および園内にある「大極殿遺址」の石碑は、平安遷都1100年の時に設置されたものですが、その後の調査によって大極殿の位置は千本丸太町交差点の縁石(19・24)付近であることが確認されています。

千本丸太町周辺の拡大地図



13 平安宮内酒殿跡 発見の井戸と木簡

内裏に納める酒を醸造した役所があった場所。井戸と木簡が発見されています。

14 平安宮一本御書所跡

世間に流布した書籍を各一本(一部)ずつ書き写して保管していた場所です。

15 平安宮内裏承明門跡

承明門は、内裏内郭の南正面門で外郭の建礼門と相対して建てられ、儀式等で重要な役割を果たしていました。

29 平安宮朝堂院跡

朝堂院は大内裏の最も重要な施設で、本来は官使が国事を執務し、天皇が裁決をするための官庁でしたが、次第に即位の大札や国家的儀式が行われる場所となりました。

30 史跡平安宮造酒司倉庫跡

造酒司は、内裏に納める酒・醴(アマザケ)・酢などを醸造していた役所です。タイルの様子は発掘調査でみつかった倉庫の柱の穴の跡で、遺構がそのまま地下に保存されています。(市指定史跡)

31 宴松原

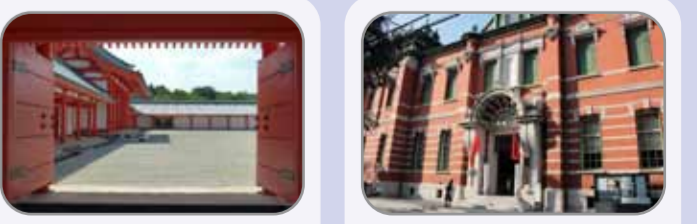
宴の松原は、平安宮の中央西側にあった広場。名称から饗宴が催された場所が、内裏を建て替える場所と考えられています。

32 平安宮大蔵省跡

大蔵省は平安宮の北部にあった令制八省の一つで、蔵が建ち並び金銭や物品の出納・収納等を職務としていました。

33 聚楽第址 大内裏及聚楽第東濠跡

平安宮(大内裏)跡を示す石碑。大内裏は現在の二条通が南限で、北は一条通、東は大宮通、西は御前通が境界にあたります。

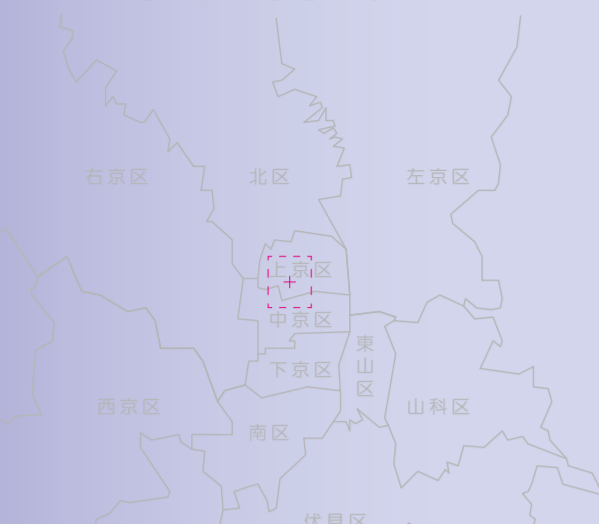


京都御所 現在の京都御所は、1855年松平定信等によって古制に則り再建されたものです。平安時代の様式が忠実に再現された紫宸殿、清凉殿、飛香舎等が見学でき、在りし日の平安宮を感じることができます。



京都文化博物館 京都市内で唯一、平安から昭和までの京都の歴史を常設展示する総合文化博物館。平安時代の様式が忠実に再現された紫宸殿、清凉殿、飛香舎等が見学でき、在りし日の平安宮を感じることができます。

1 平安宮跡



～文化財と遺跡を歩く～ 京都歴史散策マップ



発行 京都市・(財)京都市埋蔵文化財研究所

平安宮に関する発掘調査

平安宮は平安京の北側中央に位置し、南北に約1,400m、東西に約1,150mの中に政治を司る朝堂院や天皇が住まいする内裏をはじめとして、様々な宮殿官舎が配置されています。この地域は現在、小規模な家屋が密集するところですが、昭和の初め頃から発掘調査が行われ、以後、数多くの遺構が見つかり、その成果により今日では正確な位置復元がなされています。中でも、豊楽院の正殿である豊楽殿や清暑堂の基壇、内裏の内郭回廊等の一部は国の史跡指定を受けています。

①～④ 内裏

内裏は内郭と外郭の二重構造となっており、内郭は紫宸殿と南庭を囲むように配置された南半部と常寧殿を中心に左右対称に殿舎が配置された北半部とで構成されています。南半部は儀式を行う「ハレ」の場、北半部は天皇とその家族の私的な生活空間「ケ」の場で、「後宮」と呼ばれました。内裏跡の発掘調査では、内郭回廊や正門である承明門およびそれに伴う地鎮め遺構、蔵人町家の建物等が発見されています。また、何回も焼けた内裏の焼いた証拠となる焼けた壁土等もみついています。

① 内裏蔵人町屋の建物の雨落溝



③ 内裏内郭回廊



② 内裏焼亡壁土



④ 内裏承明門



⑤ 内酒殿

内裏の東側で、平安宮で初めての井戸を発見しました。かなり大きなもので掘形は一辺約5.4m、深さ約7.0mもありました。その掘形の土の中から「内酒殿」「弘仁元年十月十八日」と墨書された木簡が見つかりました。この木簡から、この井戸は内酒殿という、天皇に献げられるお酒を作っていたところの井戸であることがわかりました。



▲内酒殿で検出された大型の井戸と出土木簡

⑥ 左兵衛府

内裏の東側、内酒殿の井戸跡発見場所より少し東南で官舎と官舎の間の区画溝から、大量の平安時代前期と中期の遺物を発見しました。中期の遺物の中には文字資料としては、極めて貴重な、かな文字で書かれた和歌が墨書された土器（京都市指定有形文化財）が見つかりました。



▲左兵衛府出土（和歌）墨書土器

⑦⑧ 大極殿院

大極殿は朝堂院の北端中央にある正殿で、殿内には高御座が据えられ、即位の大礼や国家的な儀式が行われたところです。発掘調査では、基壇の堆積状況を部分的に確認したにとどまっていますが、大極殿院北回廊や東軒廊で凝灰岩を用いた壇上積み基壇の一部が発見されています。

⑦ 大極殿院北回廊（上：北縁、下：南縁）



⑧ 大極殿院東軒廊（南縁）



⑨⑩ 朝堂院

朝堂院は朝政や公の儀式を行うところです。大極殿がある大極殿院域、朝堂十二堂のある朝堂域、朝集堂を囲む朝集堂域に区画されています。その内の朝堂域では、昌福堂・延祿堂・修式堂・承光堂等の建物基壇縁の一部が発見されています。また、西門である宣政門基壇の東縁が発見されています。

⑨ 朝堂院昌福堂（基壇北縁の延石）



⑩ 朝堂院宣政門（基壇東縁）



⑪ 中務省

朝堂院の東、内裏の南にあります。叙位や位記に関することや戸籍名簿の保管、国史の監修や占い・天文・時・暦の編纂を職掌としています。発掘調査では、多数の建物や区画の築地、溝が発見されています。また、省内の役所の一つ「内舎人」銘の墨書土器もみついています。



⑬ 豊楽殿

豊楽殿は豊楽院の正殿で、国家の饗宴を行うところです。朝堂院の西側に位置します。発掘調査では、豊楽殿の西北部を調査し、建物基壇とともに清暑堂へつながる回廊を発見しました。基壇の規模や化粧の様子、使われた様々な遺物が出土し、調査地は国の史跡に指定され、出土遺物も国の重要文化財に指定されています。その一部は京都市考古資料館で展示しています。



⑭ 豊楽院清暑堂

豊楽院の正殿である豊楽殿の北側にあった後殿です。発掘調査では、豊楽殿につながる北回廊や建物基壇の南縁、階段部分が発見しました。この調査地も国の史跡に追加指定されました。



⑮ 造酒司

豊楽殿の西北に位置し、酒・甘酒・酢の醸造をしたところです。発掘調査では、平安宮内で初めての倉庫跡を発見しました。この建物は醸造用の米等を保管した高床式倉庫と考えられます。



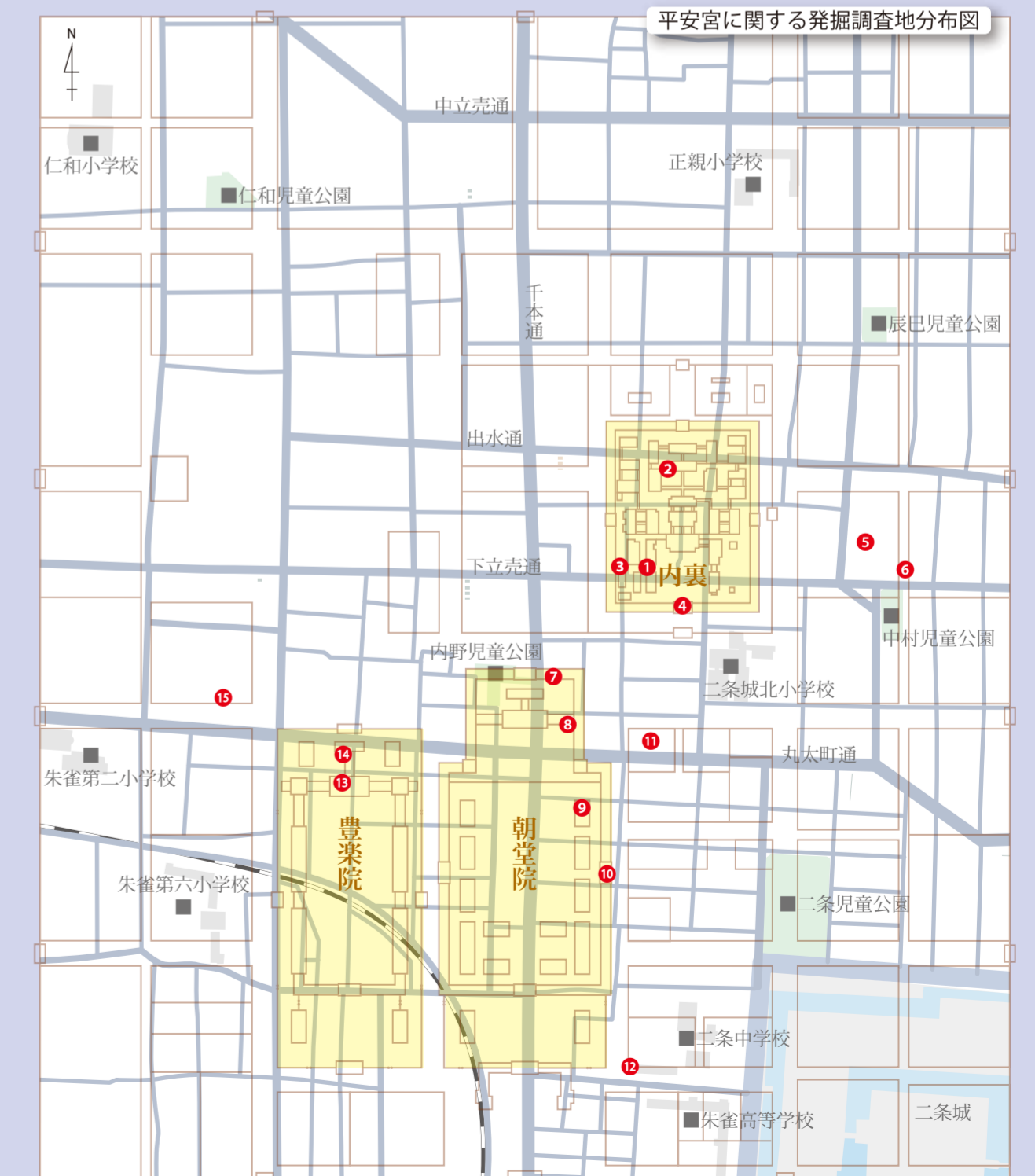
▲造酒司出土土碗

⑫ 民部省

民部省は財政・租税一般を管轄するところで、被官として主税寮と主計寮があります。発掘調査では、民部省の南面と西面の築地跡を発見しています。また、「主税」銘の墨書土器もみついています。



▲豊楽殿出土遺物（重要文化財）



資料提供：財団法人京都市埋蔵文化財研究所



京都市考古資料館

大正3年に本野精吾の設計で建てられた旧西陣織物館を内部改修し、京都市内の発掘調査・研究の業績を発表・展示するため昭和54年11月に設立されました。特別展と常設展で構成され、約1000点の遺物が展示されています。遺物展示のほかにも、映像やパソコンで旧石器時代から近世にかけての京都の歴史を学ぶことができます。建物は、昭和59年に京都市有形文化財に登録されています。

〒602-8435
京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
TEL. 075-432-3245 FAX. 075-431-3307
http://www.kyoto-arc.or.jp/museum/

入館無料・月曜休館（月曜が祝日の場合は翌日）
開館時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）

JR京都駅より地下鉄烏丸線 今出川駅下車徒歩15分
バス201・203・59系統 今出川大宮下車すぐ

